

## 2025年度 修士課程入学試験（春期）

## 試験問題〔専門〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

---

問題A-1～E-9の中から志望研究指導の問題について解答しなさい。

志望研究指導以外の問題を選択した場合や2問以上解答した場合は採点されません。

---

問題記号	研究領域	ページ
A-1～7	スポーツ文化研究領域	P. 2
B-1～8	スポーツビジネス研究領域	P. 3
C-1～18	スポーツ医科学研究領域	P. 4～6
D-1～6	身体運動科学研究領域	P. 7
E-1～9	コーチング科学研究領域	P. 8～9

## A. スポーツ文化研究領域

### A-1 研究指導名：スポーツ史（石井 昌幸）

主として英米で生まれた近代スポーツは、19世紀末頃から世界各地に広まった。その際に、各国の内外で、交通機関とメディアの発達が発達近代スポーツの普及に大きな役割を果たした。このことについて具体例を挙げながら論じなさい。

### A-2 研究指導名：舞踊論（杉山 千鶴）

舞踊・ダンスの、心身双方に与える影響について述べよ。

### A-3 研究指導名：体育科教育学（吉永 武史）

児童生徒の体力向上に向けた体育授業の在り方について、①カリキュラムならびに②学習指導の観点から具体的に述べなさい。

### A-4 研究指導名：スポーツ教授学（深見 英一郎）

教師の相互作用の表現のしかたが生徒の学習成果に及ぼす効果について考えるところを述べなさい。

### A-5 研究指導名：スポーツ社会学（中澤 篤史）

質問票調査、フィールドワーク、資料分析など、任意の社会調査のスタイルを取り上げて、それが抱える方法論的な問題を論じなさい。

### A-6 研究指導名：スポーツ文化論（川島 浩平）

二十世紀のどこかの時点で、日本と他国（一つを選ぶこと）で起きた「スポーツ文化」に関連すると思われる出来事の一つずつ取り上げ、スポーツ文化としての共通性と相違性を説明しなさい。その際まず「スポーツ」とは何か、「文化」とは何かを必ず定義すること。

### A-7 研究指導名：アジアのスポーツと身体文化（高嶋 航）

アジアにおける冷戦とスポーツについて知るところを述べよ。

## B. スポーツビジネス研究領域

### B-1 研究指導名：スポーツ経営学（木村 和彦）

人びとの豊かなスポーツ生活の形成を目的として行われるスポーツ経営には営利・非営利、行うスポーツ・みるスポーツなど幅広い実践領域がある。1つの実践領域を選択して、具体的な経営組織、スポーツ事業や経営課題について説明しなさい。

### B-2 研究指導名：健康スポーツ論（中村 好男）

寝たきり高齢者のQOLが阻害される要因について指摘したうえで、寝たきり状態でも自己実現できる方策を提案せよ。

### B-3 研究指導名：トップスポーツビジネス論（平田 竹男）

あなたはある球団（クラブ）の会長です。一つの球団（クラブ）を選びトリプルミッションモデルを用いてその球団（クラブ）の発展を論ぜよ。

### B-4 研究指導名：スポーツ組織論（作野 誠一）

日本のスポーツ競技団体（National Federation：NF）が抱える問題点を指摘したうえで、それらに対する短期的および中長期的な改善策について論じなさい。

### B-5 研究指導名：スポーツビジネスマーケティング（松岡 宏高）

スポーツ消費者（する人または見る人）の消費における意思決定過程について、具体例を用いて詳細に説明せよ。

### B-6 研究指導名：スポーツビジネス法（松本 泰介）

オリンピックパラリンピック大会に関する日本のアンブッシュマーケティング規制の概要と法的問題点について、具体例を挙げながら論じなさい。

### B-7 研究指導名：スポーツ&エンターテインメントマネジメント（佐藤 晋太郎）

スポーツ観戦（X）がウェルビーイング（Y）に及ぼすポジティブな影響は近年の科学で強く支持されています。このポジティブな関係性（X→Y）がネガティブになる状況を、あなたが自由に考えた媒介変数（Moderator）を用いてより詳細に説明してください。

### B-8 研究指導名：スポーツプロモーション（高橋 義雄）

今日、アスリートの「デュアルキャリア」が推奨されている。「デュアルキャリア」が必要とされるアスリートの抱える課題を説明し、アスリートが「デュアルキャリア」によって得られるメリットとデメリットを論じなさい。

## C. スポーツ医科学研究領域

### C-1 研究指導名：運動免疫学（赤間 高雄）

運動不足であった者が定期的な運動を実施すると、免疫機能と慢性炎症とにどのような変化がおこると考えられますか？

### C-2 研究指導名：運動器スポーツ医学（鳥居 俊）

スポーツ活動は練習でも競技会でも年齢区分による集団で行われることが多い。運動器の損傷予防の観点から、年齢区分による集団分けにおいても発生しうる問題点とその対策について記しなさい。

### C-3 研究指導名：健康行動科学（岡 浩一朗）

以下の設問から1つを選択し、回答せよ。

- 1) 勤労者における座りすぎとプレゼンティズムの関連について、知るところを述べよ。
- 2) アスリートのスポーツ外傷・障害に伴う心理的問題について、その特徴や有効な支援方法について知るところを述べよ。

### C-4 研究指導名：スポーツ整形外科学（金岡 恒治）

腰椎椎間板ヘルニアの発症メカニズムについて説明し、その対処方法について詳述せよ。

### C-5 研究指導名：予防医学（鈴木 克彦）

慢性炎症に関して、その特徴、機序および予防対策について知るところを述べよ。

### C-6 研究指導名：アスレティックトレーニング（広瀬 統一）

ハムストリング肉離れの病態、メカニズム、要因について簡潔に説明したうえで、予防方法について論じてください。

### C-7 研究指導名：筋生物学（秋本 崇之）

骨格筋、心筋、平滑筋における筋収縮分子メカニズムの違いに関して述べよ。

### C-8 研究指導名：運動代謝学（宮下 政司）

高齢期における低栄養の問題に対し、身体活動がどのような役割をもたらすか、述べよ。

C-9 研究指導名：運動器スポーツ機能解剖学（熊井 司）

人体の構造の中で腱・靭帯が骨に付着している部分は解剖学的にエンテシス（enthesis）と呼ばれ、様々な障害が発生する部位として知られている。エンテシスに起こる代表的な障害として足底腱膜炎があげられるが、その病態と治療法について下記のキーワードをすべて用いて説明せよ。

キーワード：

線維軟骨組織、踵骨棘、立ち仕事、マラソンランナー、超音波画像検査、ストレッチング、体外衝撃波治療

C-10 研究指導名：健康教育学（石井 香織）

子どもの健康増進に向けたヘルスリテラシー教育の在り方について考察せよ。

C-11 研究指導名：スポーツ神経精神医科学（西多 昌規）

設問 A、B に解答してください。

- A. メラトニンについて、知るところを述べてください。
- B. 睡眠とスポーツパフォーマンスやコンディショニングとの関連について、知るところを述べてください。

C-12 研究指導名：スポーツ疫学（澤田 亨）

「PECO」と「PICO」をそれぞれ説明してください。

C-13 研究指導名：アスレティックパフォーマンス（平山 邦明）

腕振りを行わない脚全体を使ったジャンプを、しゃがむ深さを統制して行った場合、カウンタームーブメントジャンプの方がスクワットジャンプよりも高く跳ぶことができる。このメカニズムについて、「力積」と「rate of force development」という語を用いて解説しなさい。

C-14 研究指導名：環境運動生理学（細川 由梨）

以下の「熱中症予防5ヶ条」（出典：公益財団法人 日本スポーツ協会）を読み、それぞれの項目の根拠について労作性熱中症の発症メカニズムを踏まえながら説明せよ。

1. 暑いとき、無理な運動は事故のもと
2. 急な暑さに要注意
3. 失われる水と塩分を取り戻そう
4. 薄着スタイルでさわやかに
5. 体調不良は事故のもと

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

C-14: スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（第5版）

C-15 研究指導名：スポーツ生化学・遺伝学（谷澤 薫平）

多遺伝子リスクスコア（polygenic risk score）について知るところを述べよ。

C-16 研究指導名：スポーツ生理学（前田 清司）

有酸素性運動中とレジスタンス運動中の血圧の変化について述べなさい。

C-17 研究指導名：応用生理学（宮地 元彦）

肥満の改善のために、6ヶ月間で体重5kgの減少を目指すために必要な生活習慣の改善の方法について、具体的な数値を用いて説明せよ。

C-18 研究指導名：スポーツ傷害・怪我・予防学（杉本 大輔）

Using English, please write your idea(s) of how to reduce lower extremity injuries in contract or non-contact sport(s).

## D. 身体運動科学研究領域

### D-1 研究指導名：生体ダイナミクス（川上 泰雄）

骨格筋の形態と機能の関係について、トレーニングや不活動による変化をふまえて、知るところを述べなさい。

### D-2 研究指導名：スポーツ心理学（正木 宏明）

心理的プレッシャー下で観察される「あがり」と「クラッチ」の2つの現象について説明しなさい。

### D-3 研究指導名：統合運動神経生理学（宝田 雄大）

以下の2問のいずれかを選択し、その設問に解答しなさい。

A ヒトの随意筋収縮力決定因子を鑑み、体重を増やすことなく、筋収縮力を向上させるための筋力トレーニングの方法やプログラムについて、あなたの考えを述べよ。

B 本人が見えたとは知覚できない、短時間の（内的）報酬と関連付けられた行動目標の呈示でさえ、（輝度・照度一定）瞳は大きく見開き、脳の（運動システム）神経活動は増加する（Takarada & Nozaki, 2017; 2018）。見えていないのに瞳は見開き、高まった脳活動により、人知れず、運動行動に素早さと力強さを付加する！？・・・あなたならこの奇妙なパラドックス\*をどのように解釈しますか。考えるところを述べよ。

\*パラドックスとは、正しそうに見える前提と、妥当に見える推論から、受け入れがたい結論が得られる事を指す言葉。相互に矛盾する命題がともに帰結し得ること。

### D-4 研究指導名：バイオメカニクス（矢内 利政）

立位でバーベルを用いてアームカール（肘屈曲伸展運動による前腕の周期的往復運動）をリズムカルに繰り返す際に、主働筋である肘関節屈筋群は周期的にその活動を増減させる。この時、肩関節屈筋群と脊椎起立筋群はどのようにパターンで活動するか？経時変化が明瞭になるよう各筋群の活動パターンを図示し、そのような活動パターンとなる力学的理由を説明せよ。

### D-5 研究指導名：スポーツ栄養学（田口 素子）

スポーツ選手におけるエネルギー消費量の構成要素とその特徴について説明しなさい。

### D-6 研究指導名：運動生理学（林 直亨）

最大酸素摂取量の測定法および推定法についてそれぞれ知るところを述べなさい。加えて、それらの測定値を全身持久力の指標として用いる上での長所と短所について説明しなさい。

## E. コーチング科学研究領域

### E-1 走運動・コーチング科学（磯 繁雄）

パラアスリートと社会の関係について、以下の設問を読んで問いに答えなさい。

現状では、会社入社と競技活動の支援（半日仕事・半日練習）は受けている。会社からの仕事の要望は「地域社会との連携」または「社員へのバリアフリー啓蒙」である。では、あなたがパラアスリートとして仕事要望をかなえる対象と主な活動計画を述べよ。

キーワード：「地域社会との連携」「社員へのバリアフリー啓蒙」

### E-2 トップスポーツコーチング科学（奥野 景介）

コグニティブレディネスの概念の「複雑かつ予測不能な状況でパフォーマンスを遂行する」（久木留, 2021）能力を養うためには、どのようなコーチングが重要になるかについて、自分の考えを述べなさい。

※ページ下部に出典を追記しております。

### E-3 スポーツコーチング学（土屋 純）

運動技術の定義とその把握方法について解説し、コーチングの際に運動技術の把握が不可欠である理由を述べなさい。

### E-4 コーチングとこころの科学（堀野 博幸）

コーチングにおける「レジリエンス」を高めることの重要性について、コーチング現場での具体例を示しながら説明してください。

### E-5 ボールゲーム戦術戦略論（倉石 平）

ゲームで勝利するための戦術戦略を立てる際に、必要とされる準備について具体的に項目を述べ、説明をきなさい。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

E-2

久木留毅著『個の力を武器にする最強のチームマネジメント論』  
（生産性出版刊）

#### E-6 トレーニング科学 (岡田 純一)

ストレングス&コンディショニング専門職として「筋力を高めるために必要な生理学的条件」について、選手または指導者に説明することを想定し、以下の文章の内容に続ける具体例を日本語で記述しなさい。

Muscular strength is most effectively developed when the muscle or muscle group is overloaded – that is, exercised against resistances exceeding those normally encountered. The use of resistance that overload the muscle stimulates the physiological adaptations that lead to increased muscular strength. The strength of an underloaded muscle – a muscle exercising against resistances that are normally encountered – will be maintained at its present level but will not increase.

出典：Fox, EL (1984) Sports physiology. 2<sup>nd</sup> Ed. p124.

※ページ下部に出典を追記しております。

#### E-7 チームスポーツコーチング論 (松井 泰二)

選手はみな違う。あなたがコーチの立場である場合、コーチングする際に特に意識する点について、具体例を示しながら述べなさい。

#### E-8 武道のコーチング学 (射手矢 岬)

柔道の「受け身」について、初心者へのコーチング方法を述べなさい。

#### E-9 冬季スポーツコーチング学 (藤田 善也)

運動技術を学術的に明らかにするための手法を2つ以上述べ、その内容について説明せよ。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

E-6

From The Overload Principle. Sports physiology 2nd Ed. Edward L. Fox. Copyright © 1984 by CBS College Publishing. Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.



